

庄司ゼミ「柳田学と教育」(都立大大学院) 全概要

ゼミ員(開講時) 三石初男 福田雅之 近藤真庸 山下雅彦 伊藤伸也 片岡洋子
 平田 薫 有賀克明 藤田 隆 柿沼秀雄 梅原利夫
 小沢有作 庄司和晃 植垣一彦

2007.11/17 全面研例会


植垣一彦

回数	ゼミ日	タイトル	内容	植垣ノートから
第1回	1979年 4/20	柳田学概論①	・「一生」の教育学	教育の本質(庄司説) 人間の生き方を学びとり、身につけ、慣れ、行使する。
第2回	5/9	柳田学概論②	・定本の解説 ・民俗学分類項目	柳田学の真髓…コトバを介して探求していった。
第3回	5/16	柳田学概論③	・民俗学分類項目 ・柳田国男の思想	人間一生の教育学結論；精神教育を忘れなかった。
第4回	5/23	人間一生の教育学②	・模式図と民俗語彙 ・コトワザにみる発達観 ・柳田教科書文と子ども	柳田学の特徴 ①大志あり ②「考」的論文 ③「説教」まじりの文章 ④民俗語彙の駆使 ⑤「仮定」先行論 ⑥根こそぎ採集の否定 ⑦学問的「たたかい」
第5回	6/6	民間教育学(具体面)	・自然観教育 言語(表現) 心(認識)	柳田学と実際教育を結ぶもの ・柳田社会科 ・柳田国語科 ・コトワザ教育学 ・一生教育学 ・口承文芸 ・その他

第6回	6/13	民間教育学②	・自然観教育 (5)童言葉より	信仰(実用) → 昔話(中間) → 物語(フィクション)
第7回	6/20	コトバの教育学①	・「赤とんぼの話」をめぐって (『少年と国語』より)	柳田登攀カリキュラム 赤とんぼの話—蟻地獄と子供—蝸牛考
第8回	6/27	コトバの教育学②	・「蟻地獄と子供」をめぐって (『西は何方』より)	日本語の教育への提言 △子どもの造語能力 △子どもの選択能力 △子どもの言語感覚能力 方言解説のキッカケを示す
第9回	7/4 (前期終了)	コトバの教育学③	・「蟻地獄と子供」をめぐって(続)	常民文化—柳田学—現代の子ども
第10回	9/19	コトワザ教育学	・柳田学とコトワザ (コトワザ全般における柳田の位置)	①俚諺武器説 ②知識…生活知識 ③言語技術(コトワザ) ④笑い 庄司説 ・一般的なもののかみとり ・論理(感性的論理) ・イデオロギー(観念形態) 素朴(萌芽的イデオロギー)

第11回	9/26	コトワザ教育学②	<ul style="list-style-type: none"> ・コトワザ解説 ・柳田の分類 ・日本民俗学の分類 ・知識コトワザについて 	日本におけるコトワザの研究 ①藤井乙男『諺の研究』（講談社学術文庫） ②金子武雄『日本の諺』（大修館書店） ③有原末吉『諺語学概論』（自費出版） ④三浦つとむの諸著書—弁証法 ⑤柳田国男の諸著書—民間教育 } 庄司ここを背負う
第12回	10/3	コトワザ教育学③	<ul style="list-style-type: none"> ・柳田の「諺」本『なぞとことわざ』 ・思惟コトワザについて 補説 コトワザの構造とその三型 	思惟コトワザについて (1)思惟コトワザ…見方考え方 (2)知識コトワザ…ズバリ知識 (3)遊びコトワザ…気休め コトバを楽しむ
第13回	10/17	コトワザ教育学④	<ul style="list-style-type: none"> ・柳田の「諺」本『なぞとことわざ』 ・柳田の『蝸牛考』論 ・ゼミ誌4号 	コトワザ教育学 A. コトワザ学 B. いわゆるコトワザ教育学
第14回	10/24	コトバの教育学④	<ul style="list-style-type: none"> ・『蝸牛考』をめぐって 	柳田学における教育学的つかみとりのカリキュラム (コトバ教育学の視点) 「赤とんぼの話」—「蟻地獄と子供」—『蝸牛考』 『小さき者の声』—「昔の国語教育」—『分類児童語彙』
第15回	11/7	コトバの教育学⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・「赤とんぼの話」—「蟻地獄と子供」 —『蝸牛考』の総括 ・『小さき者の声』をめぐって 	柳田の発見 <ul style="list-style-type: none"> ・コトバは変わる（生老病死） ・コトバは創られる ・子どももコトバを創る ・子どもは言語文化に寄与する（社会的役割） ・言語は遠隔地に残る ・方言圏論

第16回	11/14	コトバの教育学⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・「昔の国語教育」をめぐって ・今後の予定 	「史心」養成の教育学 『村のすがた』－『火の昔』－『村と学童』
第17回	11/21	コトバの教育学⑧ (⑦の間違いか?)	<ul style="list-style-type: none"> ・『分類児童語彙』をめぐって △民俗語彙部門 △全体系 △上巻 △総合本 △上巻分析 	現今世上の「児童学」本 <ul style="list-style-type: none"> ・まことにもって、科学的。 ・統計的解釈多し。 ・味がない。 ・親の情愛がみられない。 ・解剖学的処理。 ・コドモ不在(いるようでいない。こどもの声がきこえない。)
第18回	11/28	「史心」教育学①	<ul style="list-style-type: none"> ・史心の概念 ・『村のすがた』をめぐって 	史心の概念(「歴史教育の話」「史学と世相解説」) <ol style="list-style-type: none"> ①史力；歴史の成長素 ②「昔の事実を知りたいという念慮」 ③「どんなものにも歴史がある」 「柳田教育論」で、全員に論文の宿題 植垣；柳田のコトバ教育観 (50枚以内 1月末)
第19回	12/5	「史心」教育学②	<ul style="list-style-type: none"> ・続『村のすがた』をめぐって △「史心」の位置づけ △「史心」の構造 	「史眼」の三段階 史感－史心－史観
第20回	12/12	「史心」教育学③	<ul style="list-style-type: none"> ・『火の昔』をめぐって △「史心」教育の落着点見ゆ 	○柳田はなぜ「トリビアルな平板性(谷川雁)」に固執したのかその意味、時代背景(戦時中)。

第 21 回	12/19	「史心」教育学④	<p>・『火の昔』をめぐって その2 △「史心」教育の着地点の相貌</p> <p>.....</p> <p>*・「日本人の智慮」 ・「日本人の長所」</p> <p>何でもかんでも中国伝来や西洋伝来で説明せんとする気風、学風への反発。大衆の工夫、日本人の自信を説かんとする。</p>	<p>(1)史心：世の中は変わる どんなモノにも歴史はある 身近な歴史を知りたい念慮</p> <p>(2)柳田のたたかい ・年表式歴史観への批判 ・気づかぬうちに変わる歴史の浮上 ・昔人の生活を推察し、その「心」までつきとめんとする</p> <p>(3)柳田の強調したもの (左欄*へ続く)</p>
第 22 回	1980 年 1/16	「史心」教育学⑤	<p>・『村と学童』の「はしがき」と「あとがき」をめぐって ・「三度の食事」をめぐって</p>	<p>S18 年 S20 年 S24 年</p>  <p>子どもと深くかかわる (読み物書きで)</p>
第 23 回	1/23	「史心」教育学⑥	<p>・「母の手鞠歌」をめぐって</p>	<p>『村と学童』S20.9 その中の「母の手鞠歌」</p>
第 24 回	1/30	「史心」教育学⑦	<p>・「三度の食事」をめぐって</p>	<p>『村と学童』の持つ意味 ①「史心」教育の具体化 ②柳田民俗学の一種の概論</p>
第 25 回	2/6	「史心」教育学⑧	<p>植垣レポート；『棒の歴史』について</p>	<p>ファールと子ども…頭の中の差 アリを見るという行動は同じ 行動のウラには認識がある 気持ち(から)ー論理(まで)</p>

第 26 回	2/13	「史心」教育学⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・「棒の歴史」をめぐって① ・「三度の食事」をめぐって 	「史心」教育学 第 2 コース 『国史と民俗学』－「一つの歴史科教案」－「歴史教育について」
第 27 回	2/20	小沢論文「近代学校を考えなおす」をめぐって 「史心」教育学⑩	「棒の歴史」論②	教育における現代とは何か (1)学校が教育を独占する時代 (2)近代学校を見直す (3)「学校に教育がない」状況
第 28 回	2/27	「史心」教育学⑩	「棒の歴史」論③	
第 29 回	3/5	「史心」教育学⑪	「三角は飛ぶ」をめぐって	柳田の固有信仰—百姓文化における固有
第 30 回	3/19	「史心」教育学⑫	「村と学童」論	<ul style="list-style-type: none"> ・疑いから出発するというのは科学ではしばしば言われるが、文化科学で「疑い」と言ったのは柳田。 ・なぜ柳田は戦争の問題にふれなかったか。
第 31 回	3/26	「史心」教育学⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・「マハツプの話」 時間があれば <ul style="list-style-type: none"> ・「千駄焚き」 	柳田「史心」論の展開のために 「史心」の中身 ①日常の諸問題の重要さへの着目 ②疑惑・疑問の重視 ③仮定的問いの重視 ④子どもへの期待強し ⑤教育への期待もまた

第 32 回	4/2	「史心」教育学⑭	「千駄焚き」(第 5 節より)	(帰り喫茶店で：庄司先生) 「母親は児童心理も教育学も知らないから文字指導もデタラメ」→ちょっと待て→教育の原型は母親、と柳田をやってきたから言えるようになった。
第 33 回	4/9	「史心」教育学⑮	植垣レポート「国史と民俗学」をめぐって	柳田の方法 ①重出立証法 ②方言圏論 ③民俗語彙
第 34 回	4/23	「史心」教育学⑯	「郷土研究の将来」をめぐって	
第 35 回	4/30	「史心」教育学⑰	「郷土研究と郷土教育」をめぐって	第 3 コース 『社会科の新構想』－『社会科の諸問題』－柳田の「社会科」論文
第 36 回	5/7	「史心」教育学⑱	「歴史教育の話」をめぐって	(帰り道：庄司先生) 「わたしたちが柳田を乗り越えるには実際教育しかない。民俗学ではやれない。だから柳田を読んでいて、これはこんな具合に授業になる、といつも考えている。」

第 37 回	5/14	〈特別番組〉 コトワザ教育学⑤	植垣論文の検討 「〈コトワザ教育〉の可能性」 （『日本の教育 1980』現代書館）	ねらい ①柳田学—民間教育学— 実際教育 ワレワレの終の目途 教育現実の変革 ②柳田学と教育学の具体的接点。その開発。 参考 ①「ことわざの価値観」（「フォークロア 3号」） ②「民俗文化とコトワザ教育」
第 38 回	5/21	「史心」教育学⑩	・続「郷土研究と郷土教育」 ・田嶋、片桐論文	『年中行事図説』（岩崎美術社） ①民俗学の大体 ②前代の精神生活 ③柳田の序（子ども観）
第 39 回	5/28	〈特別番組〉	柳田国男と大西伍一（小林論文）	柳田の談話記録その他 ～大西たちの『農村教育研究』誌に掲載～ 「郷土研究といふこと」「郷土館と農村生活の諸問題」 「凡人史の省察」
第 40 回	6/4	「史心」教育学⑫	・「史学と世相解説」 ・「凡人史の省察」	『国史と民俗学』の第 5 論文 なかなかの論文
第 41 回	6/11	「史心」教育学⑬	・植垣レポート「一つの歴史科教案」 ・「凡人史の省察」など	「一つの歴史科教案」について (1)まさに「史心」教育案の提出。 (2)柳田はなぜそこまでテを出すか。 ①「反省の学」的歴史観。 ②歴史を他人事と考えない。 ③次代国民への期待。 つまり柳田の「現実変革」への意思見ゆ。

第 42 回	6/18	「史心」教育学②	<ul style="list-style-type: none"> ・「一つの歴史科教案」その 2 ・「女の咲顔」(『笑の本願』) 	<p>「一つの歴史科教案」のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ①柳田学と教育学を結ぶ ②柳田国男における実践的課題 ③相当な自信の表明である ④教育界への提言にして予言 ⑤学者にしてここまで口を出す ⑥ココからはワレワレが背負う
第 43 回	6/25	〈特別番組〉	<ul style="list-style-type: none"> ・「女の咲顔」 ・「涕泣史談」 	<p>「女の咲顔」←柳田の着眼・歴史へのせまり方</p> <p>「涕泣史談」←学問する心</p> <p>◎いわば大人向「史心教育」具体版</p>
第 44 回	7/2	「史心」教育学③	「歴史教育について」その 1	<p>「史心」教育学～一応のしめくくり～</p> <p>論の体系化</p> <ul style="list-style-type: none"> ①柳田説の総合化 ②組みあげ案 <p>具体作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教案例 ②子ども向きの話 ③授業書等 <p>○教育学の一角</p>
第 45 回	7/9	〈特別番組〉	柳田の談話記録や論文をめぐって 感想出し合い 1 人 5 分	<ul style="list-style-type: none"> ①「郷土館と農村生活の諸問題」(植垣) ②「凡人史の省察」 ③「義務教育の条件」 ④「伝承文化と少国民文化」

第 46 回	9/10	「史心」教育学④ 「柳田社会科」①	・「歴史教育について」その 2 △人々のくらしと水 実践記録を通して	(この回から柘植信行さん)
第 47 回	9/17	柳田社会科②	・その概観 ・『社会科の新構想』(1)	(1) 柳田社会科の出発 S22(1947) (2) 柳田社会科の成立 S26(1951) (3) 柳田社会科の発展 S28(1953) (4) 柳田社会科の挫折 S38(1963) (5) 柳田社会科ほそぼそ時代←成城に柳田社会科の単元 (わずか) 残る (6) 柳田社会科見直し時代←社会科の初志を貫く会 (1970 年前後) 世間 (世の中) — 史心 よき選挙民 教科書を作るとき 史心 風土感 ジッテ (道徳…)
第 48 回	9/24	柳田社会科③	『社会科の新構想』(2)	教科書『日本の社会』 S28 ↑ 『社会科の諸問題』 S24 ↑ 『社会科の新構想』 S22 庄司ここから参加 (S24 年 9 月成城学園初等学校赴任)
第 49 回	10/1	柳田社会科④	『社会科の諸問題』(1)	(この回から小田富英さん)

第 50 回	10/8	柳田社会科⑤	『社会科の諸問題』(2)	「社会科」観 △柳田の～：世間勉強…よき選挙民 △勝田の～：シビックエデュケーション…日本社会の民主化
第 51 回	10/15(水) 庄司宅 6:00-9:00	白井禄郎氏に聞く	柳田社会科の成立過程	柳田の授業のイメージ ・子どもが何を考えているか、何を疑問に思っているか。 それをキャッチしなければいけない。 ・知識を教えるのではない 優秀な子を育てるのではない。 ・選挙のとき自分の考えで一票を投ずることのできる人間。 ・社会は変わる、変える。
第 52 回	10/22	柳田社会科⑦	『社会科の諸問題』(3)	
第 53 回	10/29	柳田社会科⑧	・『社会科の諸問題』(4) ・柳田社会科の単元 ・教科書『日本の社会』植垣レポート(1)	「疑いない事は、ひとり残らずかれらに必要な、生きていかれようような、自活に便利なものをお教えねばならぬという事です。そうした知識と判断力とを与えるようにしなければならぬ。」(『諸問題』P30)
第 54 回	11/12	柳田社会科⑨	教科書『日本の社会』	〈単元の底に流れるもの〉 ・歴史的経験は幕大である。 ・社会の現象にはすべて原因がある。 ・民族は多様である。 ・世の中は変わる。 ・社会は変えていくことができる。 ・どんなものにも歴史がある。 ・物事に原因のないものはない。

第 55 回	12/10	柳田社会科⑩	・柳田社会科についての覚え書き ・教科書『日本の社会』植垣レポート（2）	続・一生教育学 「社会と子ども」—『産育習俗語彙』—『先祖の話』
第 56 回	12/17	柳田社会科⑪	・教科書『日本の社会』（3）	
第 57 回	12/24	〈特別番組〉	チャガの子ども観	
第 58 回	1981 年 1/14	柳田社会科⑫	教科書『日本の社会』（4） 6 年 5 年（植垣レポート）	日本民俗学（柳田）の分類項目の変遷 ○民間伝承論（S9） ○郷土生活の研究法（S10） ・生活諸相（目） ・有形文化 ・言語芸術（耳と目） ・言語芸術 伝説と説話 ・心意芸術 ・心意諸現象（心）
第 59 回	1/21	柳田社会科 （終）	教科書『日本の社会』（5）	
第 60 回	1/28	柳田国男と『先祖の 話』と教育		
第 61 回	2/4	「子殺しの姿容」		

第 62 回	2/8(日) 庄司宅 2:00-4:00 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">全終了</div>	大藤ゆきさんを囲んで	<p>◎児やらいについて</p> <p>◎コトワザについて</p> <p>◎学校教育と民間教育について</p> <p>◎『分類児童語彙』について</p>	<p>・現代では OL だけが共働きと思われているが、日本では昔から“共働き”というのは当たり前…女も働く。</p> <p>・子どもに作らせることについて 標語的なものはできるだろうが、群れの中でのコトワザというようなものは生活経験をふまえないと分からない。</p> <p>・明治の学校教育は、 民間教育法を否定している。 学ぼうという姿勢がなかった。 受け継いでいくべきことを見落としてきた。</p>
--------	--	------------	--	---

追記 この後、1981年5月13日から1982年2月28日までの毎月1回日曜日、計10回。
都立大を離れて引き続き、「自主ゼミ」として庄司先生宅で勉強会。

最終回2月28日、「全面教育学研究会」の立ち上げを決定。毎月1回第4土曜日に例会。

◎1982年3月27日(土) 第1回全面研、植垣宅にて。2:30～4:30。

○内容

・三段階連関理論 (三石 Re) ・庄司和晃年譜 (植垣 Re)

2回目から、会場は神楽坂教育会館。

第2回 植垣論文「コトワザ教育—『展開のある授業』の試み」

(参加者：三石 井坂 小林 羽原 小田 徳永 青池 植垣)

(2007.11/13)

(訂補 2009.2/10)